# 雌　阿　寒　岳

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

## ○火山活動評価

2020年７月に活発化した赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列の噴気活動は2020年12月以降低下し、地震活動も2020年９月末以降低調で、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## ○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況（2021 年７月～2022 年６月）

| 2021 年７月以降の発表履歴 | 現在の警報・予報（噴火警戒レベル、キーワード） |
|---|---|
| 変更なし | 噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意） |

## ○2021年７月～2022年６月の活動概況

**・噴煙などの表面現象の状況（図１-①～⑥、図２～５、図６-①）**

監視カメラによる観測によると、2020年７月下旬に赤沼火口及び北西斜面06噴気孔列で噴気活動が活発化しましたが、2020年12月以降低調な状態で経過しています。また、96-1火口の噴煙の高さは火口縁上概ね100ｍ以下、中マチネシリ火口の噴気の高さは火口縁上概ね200ｍ以下で経過しており、各火口の噴煙・噴気活動は低調な状態です。

2021年７月に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、前回（2020年11月）の観測と比較して、北西斜面06噴気孔列の噴気活動が低下していることを確認しました。

**・地震及び微動の発生状況（図１-⑦～⑧、図７～９）**

火山性地震は少ない状態で経過し、主にポンマチネシリ火口及び中マチネシリ火口の深さ１㎞より浅い所で発生しました。

**・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図６－②）**

全磁力連続観測では、ポンマチネシリ96-1火口周辺の地下での火山活動の高まりを示すような特段の変化は観測されていません。

**・地殻変動の状況（図10）**

広域のGNSS連続観測で2016年10月頃から観測されていた、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2019年夏頃から停滞しています。

図１　雌阿寒岳　火山活動経過図（1973年１月～2022年６月）

⑥の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。

＊１：2012年から分解能が高い測定機器に変更したため、同じ対象を観測した場合でもそれ以前の機器より高めの温度が観測される傾向があります。

図２　雌阿寒岳　南東側から見た赤沼火口、96-1 火口及び中マチネシリ火口の状況
（上徹別（かみてしべつ）監視カメラによる）

図３　雌阿寒岳　西側から見た北西斜面 06 噴気孔列の状況
（オンネトー展望台（道）監視カメラによる）
左：2022 年６月 17 日　　右：2020 年７月 27 日

図４　雌阿寒岳　火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影位置（矢印）

図５　雌阿寒岳　赤外熱映像装置による北西斜面06噴気孔列の状況と地表面温度分布
上段：西側上空（図２の①）から撮影
下段：西側上空（図２の②）から撮影
※図中の矢印は、それぞれ同じ場所を示す

観測点配置図

図６　雌阿寒岳　ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さと全磁力値の経過及び全磁力観測点配置図
（2003年～2022年６月）

①のグラフに示す噴煙の長さは気温の影響を受けることから（気温が低いと噴煙は長くなり、高いと短くなる傾向がある）、気温補正後の値をプロットしています。
②のグラフに示す全磁力値は、地磁気観測所女満別観測施設との全磁力値差をプロットしており（表示開始は2003年10月16日）、空白部分は欠測を示します。

- 2016年５月以降、96-1火口の噴煙量は低下した状態が続いています。
- ポンマチ南東観測点の全磁力値は、2021 年６月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2022 年３月頃からわずかな減少傾向がみられています。ただし、この変化は観測点付近の局所的な変化による可能性もあります。